

口頭試験における初級中国語学習者の コミュニケーション・ストラテジー — 「聞き返し」を中心に —

西 香 織
(外国語学部 中国学科)

キーワード

「聞き返し」、コミュニケーション・ストラテジー (CS)、中国語、口頭試験、初級

要 旨

本稿では、17名の初級中国語学習者を対象に、口頭試験において、学習者が教師（中国語母語話者）とのやりとりの際に聴解上の問題に遭遇した場合、どのようなコミュニケーション・ストラテジーを用いるかを主に「聞き返し」に焦点を当て調査した。結果、17名中15名が33場面においてやりとりに問題を生じ、6種類（74例）のCSが見られた。初級学習者は中国語に対する言語知識も限られており、使用されるストラテジー及び表現はほぼ同一で、授業で使用する教材に提示されていた定型表現“请再说一遍”が多用されていた。わずかに“听不懂”、「沈黙」も見られたが、その場合にはやりとりが終了してしまい、学習者がコミュニケーション上の問題を解決することはできないこともあった。その他、興味深い特徴として、期末試験であったため、多くのデータにおいて、学習者がまず教師の問いかけに対して回答を試みた後に、「聞き返し」を行うパターンが見られたこと（例：“…对，我·我今天有 [↑]·有·请·再说一遍。”）、学習者が教師の質問を理解しているにもかかわらず「聞き返し」（“请再说一遍”）を行っていた例が6例見られたことが挙げられる。後者は、フォローアップ調査を通して、教師に質問を繰り返してもらうことにより、学習者が答えるのに必要な単語（発音）、文型の情報を引き出そうとしていたことが分かった。これは、初級学習者が自らの限られた言語（中国語）能力の中で生み出した一種のストラテジーと言える。

1. はじめに

他者とのコミュニケーションにおいては、母語話者間でも、さまざまな要因から「聞き取れない」ということが起こりうるが、第二言語（外国語）によるコミュニケーションでは、より頻繁に「聞き取れない」という事態に遭遇する。そこで、学習者はふつう、コミュニケーションを維持するために何らかのコミュニケーション・ストラテジーを使用する。その中でも、聴解上の問題解決のために使用されるストラテジーが「聞き返し」である。中国語においてよく見られるのは、“对不起，请再说一遍”、“我（还）没听懂”、“…是什么意思？”、“shǒuji?（エコー、相手のことばを全部、または一部オウム返しにする）”、“什么？”、“啊？”等であるが、特に初級学習者は「沈黙」（アイコンタクトなど非言語的要素が付随することが多い）を用いることもあり、場合によっては、コミュニケーションが失敗に終わることもある。

「聞き返し」のストラテジーは、「相手の話が聞き取れない、分からないという問題に直面し、それを解消するために相手に働きかける方策」と定義されている（尾崎 1992：252）。日本語教育においては、学習者の使用する「聞き返し」ストラテジーについての研究が、特に90年代以降、盛んに行われている（尾崎 1992, 1993, 2001、トムソン木下 1994、福間 1994、猪狩 1998, 1999、横須賀 2001、石田（猪狩） 2002、椿 2010、堀内 2011、李 2011、福富（堀内） 2012 など多数）。一方、中国語教育においては、学習者のとるコミュニケーション・ストラテジーについて 21 世紀以降いくつかの研究が見られるもの（罗青松 1999、刘頌浩ほか 2002、章文君ほか 2008、吴勇毅 2008、钟泽洲 2009、闫丽萍・雷晔 2011、靳洪刚 2011、李彦霖・王萍丽 2014、江晓丽 2015 など）、「聞き返し」のストラテジーに焦点を絞った研究、特に日本語を母語とする学習者を対象にした研究はほとんどされていないのが現状である。そこで本稿では、日本語を母語とする初級中国語学習者を対象に、録音・録画した中国語の口頭試験のデータ及びフォローアップ調査の結果を元に、学習者が教師（中国語母語話者）とのやりとりの際に主に聴解上の問題に遭遇した場合、どのようなコミュニケーション・ストラテジーをどのような意図で用いるのかについて基礎的調査・分析を行うことにした。

2. コミュニケーション・ストラテジーと先行研究

2.1 コミュニケーション・ストラテジーとは

第二言語（L2）習得研究の分野において、コミュニケーション・ストラテジー（Communication Strategies、以下、CS）の研究が盛んになったのは 1980 年代のことで、Færch & Kasper（1983）の研究が代表的なものである。これまで CS については、研究者によって様々な定

義、分類が提示され、異なるアプローチがされてきた。Dörnyei & Scott (1997) は CS 研究の歴史を追い、これまでに提示されてきた主要な CS の定義、分類を表にしてまとめており、Dörnyei & Scott (1997: 197) によると、Dörnyei & Scott (1995a, 1995b) では実に 30 以上の分類がされている。CS とは大まかには「第二言語学習者が第二言語で話をする際に、その言語に対する知識や能力の不足などからコミュニケーションに支障が生じる（可能性がある）場合に、その支障を取り除くため、または効果的にコミュニケーションを継続するために、学習者がとる方策」と言うことができよう。中国語を例にとると、学習者がある言葉を中国語で何というか分からない場合や適当な表現が思い出せない場合に、

- ・ それと近い意味の単語や上位語などで代用する

例：“我去买吸尘器” → “我去买家电”、“我去买东西”

- ・ 説明的に単語を表す

例：“我去买吸尘器” → “我去买打扫用的电器”

- ・ 自分で単語を作る（造語）

例：“我去买吸尘器” → “我去买打扫机”

- ・ 母語を直訳する

例：“我去买吸尘器” → “我去买扫除机”

- ・ その単語だけ母語や別の言語の単語をそのまま用いる

例：“我的笔记本（电脑）坏了” → “我的 laptop 坏了”

- ・ 指示詞（その場にあるものを指さす）や視線、表情、ジェスチャーを用いる

例：“裤子的拉链坏了” → “裤子的这个（指さして）坏了”

助けを求めるような視線を送る、首をかしげる

- ・ 相手に意味を確認したり、その単語の説明を要求する

例：“róngyì 是什么意思？”、“róngyì 是简单的意思吗？”、“róngyì？”、“怎么写？”等

- ・ 相手に繰り返しを要求する

例：“请你再说一遍”、“什么？”、“啊？”等

- ・ 意味が分からないことを伝える

例：“对不起，我听不懂”、“不好意思，我还不明白”等

- ・ フィラー（fillers）を使用して間を埋める（考え中であることを示す）

例：“那个…”、“嗯…”、“怎么说呢”、“就是说…”等

- ・ その語を用いないで済むように話題を変える

- ・ わかったふりをして話を合わせる（相づちを含む）

等のストラテジーが見られる。“啊？”や“嗯？”等の感動詞や単語の繰り返し（エコー）の

ように、複数のストラテジーにまたがるもの、あるいはどのストラテジーを用いているのか明確ではないものもある。これらのストラテジーは学習者のみが使用するものではないが、学習者は通常、できるだけ沈黙が続くのを避け、様々なストラテジーを駆使してコミュニケーション上の支障を取り除き、効果的にコミュニケーションが維持できるように努めている。また、ストラテジーによっては、対話の相手から正しいインプットを受けることができ、その結果、コミュニケーション活動中に新しい単語や表現、文型を習得することも可能となることがある。

ネウストプニー (1981, 1995:192) は、日本語の「接触場面」¹⁾ に特有の訂正過程として、「モー一度イッテクダサイ」というかなり不自然に聞こえる表現を挙げており、「沈黙」も一部の接触場面においては「行き詰まった」ことの標号として使われることを指摘している。また、「聞き返しのストラテジー」として説明を要求する手段はいろいろあるが、日本人の母語話者がよく使用する「エッ?」のような語は、初級の学習者はあまり使えず、その代わりに母語話者がそれほど使わないエコー（相手が使った単語がわからない場合、それを繰り返す、たとえば「イモート?」）を頻繁に使うことを指摘している (ネウストプニー 1995:229)²⁾。つまり、「母語場面」では不必要または重要ではない表現形式も、「接触場面」では必要不可欠かつ有効な表現形式となることがあるということである。この指摘は注目に値する。

2.2 口頭試験に見られる学習者の「聞き返し」

上述したとおり、中国語の「聞き返し」ストラテジーに重点を置いた研究は見られないが、日本語においては、口頭試験における CS について扱ったものに福間 (1994)、猪狩 (1998) がある。以下、本稿と関連する部分を中心に先行研究について言及する。

福間 (1994) は、日本語研修生コースの学習者 25 名を対象に、ゼロからの学習者が約 6 ヶ月にわたって学習していく中で、毎週一回の口頭試験 (面談、ロールプレイ) を実施し、「聞き返し」のストラテジーに焦点を当ててその表現形式とその応答について観察を行っている。福間 (1994) が分類した聞き返しの表現形式をまとめると以下のようになる。

- (a) 沈黙型：何も言わないでただ黙っている、あるいは「あー」や「うーん」などのノイズだけを発する
- (b) 聞き返し型：何らかのかたちでこちらの質問が聞き取れなかったことの意味表示をする
 - (b-1) 全文反復要求型：質問の反復を要求する
「すみません。もう一度お願いします」
 - (b-2) 単語反復型：質問中の聞き取れなかった単語だけを反復する
「2千5百…」

(b-3) エコー型： 質問の全文を反復する

「わかったら…電話…する↑…。」

10回の口頭試験全体では、使用割合は「沈黙型」(44.3%)、「エコー型」(23.4%)、「単語反復型」(17.2%)、「全文反復要求型」(15.1%)の順になっているが、特徴として、日本語を始めたばかりの初期の段階では、ただ黙って沈黙する「沈黙型」が多く見られること、「聞き返し」の頻度や表現形式は必ずしも学習時間に比例するのではなく、後半になっても課題によって負荷が高くなると沈黙のケースが増え、逆に非言語的表現が伴うようなロールプレイにおいては比較的意思の疎通が容易であることなどを指摘している。

また、「聞き返し」の発話意図を、挙げられた例文と共にまとめると以下ようになる。

1. 反復要求 ①全文反復要求 ②部分反復要求

「すみません。もう一度お願いします。」「すみません…」「わかりません。」
より初期には「もう一度」「何↑」

2. 確認要求 ①聞き取り確認要求 ②単語の意味確認要求

質問が聞き取れなかった、あるいは質問の意味が分からなかったなどの学習未熟のために起こる聞き返し：「何才から↑。」／「鍵↑。」

③質問の内容確認要求

より適切な応答を行うための発展的な聞き返し：

「小学校の時、何が一番好きでしたか。」「スポーツの中で↑。」

「ペルーでは大学に入るのは難しいですか。」「Publicの大学↑。」

3. 説明要求 ①単語の意味説明要求 ②質問の意味説明要求

質問の意味、または質問中のある言葉の意味がわからなかったケースで、相手に何らかの意味説明を求めている：

「両親と一緒に住んでいますか。」「りょうしん…。」

「先週の火曜と水曜はお休みでしたね。」「…お休み…。」

この分類のなかに含めることができず、発話意図がはっきりしないもの（聞き返しの表現形式が適切でないために、質問が聞き取れなかったのか、あるいは質問に対する答がわからなかったのか不明確）の例として、

「エジプトでは女の人は結婚した後はどうしますか。また働きますか」「わかりません。」

「今日はこれの使い方を説明してください」「わかりません。」

等を挙げ、いずれの場合も、聞き返しに関しては「あいづち」(「そうですね…」)をも含めて、質問に対する状況理解及び聞き返しの発話意図を明確にすることが肝心であり、それが「聞き返し連鎖」を避け、対話者の適切な応答を導くことにつながる、と述べている。

以上のような結果から、福間（1994）はまとめとして、話し手が「聞き返し」の目的で「わかりません。」と答えた場合、質問の意味がわからないのか質問に対する答がわからないのかが明確でないために、的確な応答が得られない場合があること、また、「すみません。もう一度お願いします。」のような「全文反復要求型」の「聞き返し」の頻度が高くなると話の流れを中断させ、相手への負担も大きくなるというマイナス面があることから、学習経験を積むに従って、聞き取れなかった言葉についてのみ上手に聞き返す「単語反復型」などに移行するのがふさわしいと述べている。

次に、猪狩（1998）は、大学予備教育課程の初級日本語学習者12名を対象に、オーラル・テストにおいて見られるCS全般について考察を行っている（ただし、言語によるストラテジーのみが分析の対象で非言語要素は対象外）。本オーラル・テストは、教師が学習者に対して1対1の形で一般的な質問を行い、学習者がそれに答えるというインタビュー形式で行われ、フォローアップインタビューは行われていない。CSはFærch & Kasper（1984）の分類を参考に分類されており、分析の結果、使用されたCSは全63で、学習者に最も多く使用されていたCSは、相手に協力を求める「協力ストラテジー（Cooperative strategies）」に属する「聞き返し」（25）、「確認要求」（12）であった。「聞き返し」には、相手に直接働きかける「すみません？」、「もう一度言ってください」、「〇〇は何ですか」などの表現形式、自分が分からないことを示す「わかりません」、さらに、相手の発話を繰り返すもの、いいよどもなどが見られ、猪狩（1998）は、本オーラル・テストにおいて「聞き返し」のCSが多くなった原因として、「本オーラル・テストでは相手の質問が分からないと答えられないので、聞き取れなかった学生は聞き返しをするなどして問題を解決しなければならないため」と分析している。また、はじめに「あい、会いました？」等の「確認要求」が多かったことについて、「オーラル・テストという場面においても、学習者は相手（教師）に自分の発話を確認しながら答えていることが明らかになった」と述べている。

ただし、猪狩（1998）は、「聞き返し」のCSが多用されているにもかかわらず効果的に使用されていないという問題点を指摘している。「学習者の聞き返しの意図が、同じ質問の繰り返し（反復）や、質問文中の語句や表現についての説明を要求することであるのに対し、聞き返しをしても、相手から反復や説明を引き出せず、学習者の意図に反して、次の質問へ相手が切り替えてしまう場合が出てくること」があり、学習者の聞き返し方や表現形式が問題の要因の一つとなっているのではないかと述べている。学習者が「すみません？」、「もう一度言ってください」などの表現を用いた後には、ほとんどの場合、教師が同じ質問を繰り返したり、違う文型に直して質問するという対応をしているが、「わかりません」という表現形式の後では、教師は同じ質問を繰り返すことはせずに質問の切り替えを行うことが多く、中にはインタ

ビュー自体の終了に繋がっている例もあり、あまり効果的とはいえない、としている。

福岡（1994）、猪狩（1998）以外にも、「聞き返し」に関する先行研究において、その発話意図（伝達機能）について分類がされているが（尾崎 1992, 1993 が代表的）、一つの表現形式が一つの発話意図とのみ対応するとは限らず、話し手の発話意図とその効果（聞き手の理解）にはずれが生じることもあるため、本稿では、両者の対応関係については柔軟に捉えることにする。

以上は日本語の初級学習者が使用する CS の結果であったが、中国語においてはどのような特徴が見られるであろうか。

3. 調査の概要

本稿では、口頭試験において、日本語を母語とする初級中国語学習者がどのような「聞き返し」などの CS を用いるかを調査した。具体的な情報は以下のとおりである。

調査日時：2015年8月

調査対象：北九州市立大学外国学部中国学科1年生17名（18～19歳）³⁾

調査時までの中国語授業時間：112.5時間（90分×週5日×15週）

調査方法：口頭試験において、学習者が教師（中国語母語話者）との1対1のやりとり（問答）の際に主に聴解上の問題に遭遇した場合、どのような CS（特に「聞き返し」）を用いるかを考察。その過程を録音・録画し、文字起こししたものを元にフォローアップ調査を実施。

調査対象となった学習者には事前に文書を配布し、調査に関する説明（調査の趣旨、公表の範囲と個人情報に関わる取り扱い、同意しない場合も一切、学業上の不利益を被ることがないこと等）を行い、口頭試験の録画・録音、及びそのデータの研究への利用についての同意を得た（同意書に署名、チェックの上、回収）。ただし、学習者にも教師（中国語母語話者）にも、今回の調査は「初級学習者の中国語コミュニケーションに関する調査」とだけ伝え、「聞き返し」に関するものであるという具体的なことは伝えていない。

口頭試験は外国語学部中国学科1年生の専攻科目「中国語初級総合Ⅰ」⁴⁾の一学期末試験であり、やりとりはすべて1学期に授業において習った文型、表現である。試験の約1週間前に出題予定の質問文一覧を学習者に配付し、各自でそれらに対する応答を準備ができるようにした。ただし、試験時にはテキストやプリント等を見ることは一切認められず、教師の出す24の質問に対して学習者が回答するという形式で進めた。

口頭試験に使用されたのは以下の質問である。

1. 你贵姓？または 你叫什么名字？
2. 你老家在哪儿？
3. 你是学生吗？または 你是哪个大学的？
4. 你的生日几月几号？
5. 你今年多大了？
6. 你家有几口人？
7. 你 {爸爸／妈妈} 做什么工作？
8. 你每周有多少节课？
9. 你学什么专业？
10. 汉语难吗？または 作业多吗？
11. 你每天学几个小时汉语？
12. 你每天几点 {睡觉／起床} ？
13. 你今天去打工吗？または 你星期几去打工？
14. 你今天有几节课？
15. 暑假你打算干什么？
16. 你家离学校远吗？
17. 从你家到学校要多长时间？
18. 你家附近有什么？
19. 你怎么来学校？
20. 你的爱好是什么？
21. 你是什么时候开始 {学／练} 的？
22. 你 {学／练} 了多长时间了？
23. 你的手机号码是多少？または 请告诉我你的手机号码，好吗？
24. 请告诉我你的 {电子邮箱／地址}，好吗？

質問に対する反応も早く、話すスピードも速い学習者は3分以内に全ての質問に対する回答を終えていたが、質問に対する反応、話すスピードが遅く、時折、聞き取れないなどの問題が生じた学習者は全ての回答を終えるまでにおよそ6.5分かかった。

試験終了後、録音・録画データを元に文字起こしをし、その後のフォローアップ調査及び分析のための資料とした。試験期間終了後に行ったフォローアップ調査では、必要に応じて、学習者に相手の言葉を理解できなかった場面の対話を示し、発話意図（「どういう意図で“请再说一遍”と言ったのか」等）や発話時の心境（「パニックになって自分が何を言っているのか

分からなくなった」等)について学習者の母語(日本語)で確認した。

4. 調査結果

資料を分析した結果、17名中15名による計33場面において、教師とのやりとりの中で聴解問題が生じ、その33場面をさらに分析した結果、使用されたCSは6種類(74例)であった。2.1でCSの一例を紹介したが、今回の調査では使用されたストラテジーの種類は少なかったため、ここでは少し詳細に分類してみていくことにする。

[表1]

直接的反復要求	“(请)再说一遍”	29	39.2%
返答の試み	“我,我,每天……”等	17	23.0%
疑問の表示(間接的反復・説明要求)[↑]	“嗯?”、“え?”(感動詞)、 “Hányǔ?”(エコー)等	12	16.2%
考え中であることの表示[→]	“啊—”、“えー(っと)”(フィラー)、 “看网球……”(エコー)等	12	16.2%
わからないことの表明(間接的説明要求)	“听不懂”	2	2.7%
沈黙 ⁵⁾	“……”	2	2.7%
	計	74	

ここで使用されたCSのうち、「聞き返し」として使用されているのは、「直接的反復要求」、「間接的反復・説明要求」、「間接的説明要求」であり、「直接的反復要求」は“(请)再说一遍”、「間接的説明要求」は“听不懂⁶⁾”という表現形式のみが使用されていた。「間接的反復・説明要求」は“嗯?”等の感動詞が多く見られ、一部に相手の言葉の全部または一部を繰り返すエコーが見られた。考え中であることを示す場合にも、フィラーとエコーが使用されていた⁷⁾。[表2]では、実際に使用された12パターンのCSの組み合わせを示している(“直接的反復要求”と「間接的説明要求」のみ、その表現形式を用いて示す)。

[表2]

1	“请再说一遍”	7	29
2	[考え中] + “请再说一遍”	2	
3	[返答の試み] + “请再说一遍”	5	
4	[返答の試み] + [考え中] + “请再说一遍”	3	
5	[返答の試み] + [疑問] + “请再说一遍”	5	
6	[返答の試み] + [疑問] + [考え中] + “请再说一遍”	2	
7	[疑問] + “请再说一遍”	2	
8	[考え中] + [疑問] + “请再说一遍”	2	
9	[考え中] + “请再说一遍”	1	
10	[返答の試み] + [考え中] + [疑問] + “听不懂”	1	2
11	[返答の試み] + [考え中] + “听不懂”	1	
12	[沈黙]	2	2

以下に具体的な例を示す。例文中の「・」はおおよそ1秒、「…」は5秒以内、「………」は10秒以内のポーズを示す。感動詞（フィラー）やエコーは疑問の表示と考え中であることの表示の両方に使用されるため、主に文末以外で疑問を示す上昇調には[↑]、平板調のイントネーションには[→]の記号を付加する。記号が付加されていない感動詞は軽声のように短く読まれたものである。

例1. “请再说一遍” (7例)

老师：你每天学几个小时汉语？

学生D：**请·请再说一遍。**

例2. [考え中] + “请再说一遍” (2例)

老师：你打了多长时间了？

学生L：**えー [→] …请再说一遍。**

例3. [返答の試み] + “请再说一遍” (5例)

老师：你每天学几个小时汉语？

学生B：**我每天…每天…这个…这个·我每天·写·我每天·(笑)·请·再·说·一遍⁸⁾。**

例4. [返答の試み] + [考え中] + “请再说一遍” (3例)

老师：请告诉我你的电子邮箱，好吗？

- 学生 E：好，这是我的・えーっと [→]・邮…请・请・再・说一遍。
- 例 5. [返答の試み] + [疑問] + “请再说一遍” (5 例)
 老师：从你家到学校要多长时间？
 学生 C：从…学习…啊・学校・啊・嗯 [↑] …请…再…说一遍⁹⁾。
- 例 6. [返答の試み] + [疑問] + [考え中] + “请再说一遍” (2 例)
 老师：从你家到学校要多长时间？
 学生 F：从・从我・家・从・我・家・从・我・家…从・我・家・从・我・家・有 [↑]
 …えー [→] …请・请再・说一遍。
- 例 7. [疑問] + “请再说一遍” (2 例)
 老师：你是哪个大学的？
 学生 O：え [↑] … (空咳をする)・请・请・最 (zui)・说・一遍。
- 例 8. [考え中] + [疑問] + “请再说一遍” (2 例)
 老师：请告诉我你的电子邮箱，好吗？
 学生 O：……嗯 [↑]・えー [→] …请再说一遍。
- 例 9. [考え中] + “请再说一遍” (1 例)
 老师：你是什么时候・开始看网球比赛的？
 学生 M：看网球 [→] …请再说一遍。
- 例 10. [返答の試み] + [考え中] + [疑問] + “听不懂” (1 例)
 老师：你今天去打工吗？
 学生 H：我・嗯ー [→] …嗯ー [→] …嗯 [↑]，听不懂，嗯 [↑]。
- 例 11. [返答の試み] + [考え中] + “听不懂” (1 例)
 老师：你是・什么时候・开始・学汉语的？
 学生 B：…我是…什么时候……えーっと [→]・我是…什……什么时候…我是…什么
 时候…我是…我是…我是……我…我…我…えっとー [→] …我是…我不听懂。
- 例 12. [沈黙] (2 例)
 老师：你今天去打工吗？
 学生 I：…………… (40 秒)。

5. 分析

5.1 特 徴

調査の結果得られたデータについて、ここでその特徴を整理したい。

1. 調査時の学習者の中国語学習歴は約4か月（112.5時間）であり、授業は文法や文化に関する解説、説明を除き、ほとんどが中国語で行われているものの、学習者はまだ自由に簡単な発話を行うことができるレベルには至っておらず、語彙も少ない段階である。そのため、既習の表現である“（请）再说一遍”が全33場面のうち29場面で使用されていた（87.9%）。実際には“能不能再说一遍？”、“再说一遍，好吗？”など様々な言い回しが可能であるが、初級の学習者にとって本表現はほぼ定型表現として身につけられたものであり、“（请）再说一遍”以外の表現は見られなかった。
2. 本口頭試験は期末試験であったこともあり、正しく回答できなかった場合には、直接的に自身の成績に影響がある。そのためか、33場面中17場面で、聴解に支障があった場合にも、学習者はまず何らかの返答を試みていた（51.5%）。その後、どうしてもコミュニケーションの維持が立ちゆかなくなった場合に、“请再说一遍”を用いて、教師に質問の反復を要求するパターンが多く見られた（33場面中15場面、45.5%）。
3. 「返答の試み」と「反復要求」（“请再说一遍”）の間には、感動詞やエコーを用いた「疑問の表示」や、同じく感動詞（フィラー）、エコーを用いた「考え中であることの表示」が使用されていたが、これらが単独で使用されることはなかった。
4. 学習者はほぼ無意識に「えっと」、「え？」等、日本語専用のフィラーや感動詞を多く用いていた。また、中国語でも使用される“啊—”（「あ—」）や“嗯？”（「ん？」）等のフィラーや感動詞についても、特に「中国語」という意識はなく、たまたま使用した日本語が中国語でも使用されていたに過ぎない¹⁰。
5. 一部の学習者は、教師の質問の意味が理解できているにもかかわらず、“请再说一遍”を用いて、教師に質問の反復を要求する特殊なパターンが6例見られた（反復要求の特殊用法）。フォローアップ調査から、学習者は聴解に問題を生じたのではなく、教師の質問に答えるために必要な単語（発音）、文型等の情報を得るために、教師に反復を要求したことが分かった。

例 13.

老师：请告诉我你的电子邮箱，好吗？

学生 E：好，这是我的·えーっと [→] · 邮…请·请·再·说一遍。（上掲例 4）

例 14.

老师：请告诉我你的电子邮箱，好吗？

学生 I：好，这是我的电…电…嗯 [↑] …请·请再·说一遍。

例 13、14 はいずれも“电子邮箱”という単語（発音）に自信が持てず、学習者は教師に質問文を繰り返させることで“电子邮箱”という単語（発音）に関する情報を得ようとしている。

例 15.

老师：从你家到学校要多长时间？

学生 C：从…学习…啊·学校·啊·嗯 [↑] …请…再…说一遍。（上掲例 5）

例 16.

老师：从你家到学校要多长时间？

学生 F：从·从我·家·从·我·家·从·我·家…从·我·家·从·我·家·有 [↑]
…えー [→] …请·请再·说一遍。（上掲例 6）

例 15、16 もそれぞれ、教師に質問文を繰り返させることで、“从 A 到 B 要 X 分钟”という文型情報を得ようとしているのである。

5.2 やりとり有効であった CS

口頭試験の中国語によるやりとりにおいて、学習者が主に聴解上の問題に遭遇した場合に、どのような CS が有効であったかを調査の結果をもとに検証したい。学習者の多くは“请再说一遍”を用いて教師に反復要求を行っていたが、その場合、教師は元の質問文を一回目よりもかなりスピードを落として繰り返していた。結果、学習者は聴解上の障害をクリアし、正しく回答をすることができた。このことから、少なくとも今回のような既習事項を出題する初級の間答形式の口頭試験テストにおいては、「直接的反復要求」（“请再说一遍”）という CS の使用は有効であったと言える。福間（1994）は、「すみません。もう一度お願いします。」のような「全文反復要求型」の「聞き返し」の頻度が高くなると話の流れを中断させ、相手への負担も大きくなるというマイナス面があることを指摘していたが、本調査のような、相手の質問文の中に回答に必要な多くのヒント（単語、発音、文型）が含まれている場合には、全文の反復を要求する“请再说一遍”は最も有効な CS であったと言える。

一方、学習者が“听不懂”と答え、わからないことを表明した場合（「間接的説明要求」、あるいは沈黙した場合には、教師は元の質問文を繰り返すとは限らず、繰り返す場合も、“请再说一遍”が使用された時のような、「スピードを落としてゆっくり質問文を読む」という配慮は見られず、質問を繰り返さずに、次の質問に移る場面も見られたことから、両者はこの種の口頭試験には有効とは言えなかった。福間（1994）は、日本語の調査において、話し手が「聞き返し」の目的で「わかりません。」と答えた場合、質問の意味がわからないのか質問に対す

る答が分からないのかが明確でないために、的確な応答が得られない場合があることを指摘していたが、本調査においても同様の傾向が見られた。

猪狩(1998)も、学習者が「すみません?」、「もう一度言ってください」などの表現を用いた後には、ほとんどの場合、教師が同じ質問を繰り返したり、違う文型に直して質問するという対応をしているが、「分かりません」という表現形式の後では、教師は同じ質問を繰り返すことはせずに質問の切り替えを行うことが多く、中にはインタビュー自体の終了に繋がっている例もあり、あまり効果的とはいええない、と述べていたが、本調査においても、同様の傾向が認められた。

6. おわりに

以上みたように、少なくとも今回のような既習事項を出題する初級の間答形式(質問も回答もほぼ事前に準備されている形式)の口頭試験においては、「直接的反復要求」(“请再说一遍”)というCSの使用は非常に有効であったと言える。また、教師の質問の意味が理解できているにもかかわらず、“请再说一遍”を用いる反復要求の特殊用法は、調査前には予測しなかったものであり、これまでも指摘がなかったようであるが、初級学習者が自らの限られた言語能力の中で生み出したCSと言え、今回のような口頭試験において大きな機能を果たしていた。中国語でよく使用されるフィラー、感動詞については初級の段階で習得する必要はないと考えるが、日本語専用のフィラーや感動詞を使用してもCSとして効果的にはたらくとは限らず、また、「えっと」などの日本語が混じることで「中国語らしさ」を失ってしまう可能性があるため、ある程度、学習の段階が進んだところで、中国語のフィラーや感動詞について紹介をしたり、日本語と中国語の違いなどを取り立てて説明したりする機会が必要であろう。

注

- 1) ネウストプニー(1981)が提唱した他の言語や文化のメンバーとコミュニケーションを持つ場面を指す。もとは「外国人場面」と呼ばれた。同じ言語や文化のメンバーとコミュニケーションを持つ場面を「母語場面」と呼び、接触場面と母語場面は質的に違うものを含む、と述べている(ネウストプニー1995,第8章,第9章に詳しい)。
- 2) ただし、トムソン木下(1994:37)は、初級学習者が「名詞型聞き返し」(本稿の「エコー」に相当)を行うためには、その「名詞」部分が聞き取れていなければならない、と述べており、実際には発音も不安定な初級レベルでエコーを使用するのはやや難易度が高いと言えよう。
- 3) 日本語を母語とし、且つ大学入学以前に中国語学習歴のない者、データ使用の同意があった者のみを対象

とする。

- 4) 本授業は中国語母語話者1名と日本語母語話者(筆者)1名で週4回、リレー講義を行っている。期末試験は「筆記試験」と「口頭試験」に分かれており、筆者は口頭試験の際、観察者兼記録(録画、録音)係として試験場にいた。学習者は本授業の他、週1回の会話授業を受講している。
- 5) ここで使用された沈黙2例はいずれも、アイコンタクト等の非言語要素を伴わないものであった。従来の考え方では、いかなるCSもとらなかったことになるが、2.1で紹介したように、ネウストプニー(1981, 1995:192)は、「沈黙」も一部の接触場面においては「行き詰まった」ことの標号として使われる、としており、ここではひとまずCSとして分類しておく。
- 6) ただし、2例のうち1例は“不听懂”と誤った形で使用されていた(例11)。
- 7) 考え中であることを示すフィラー(感動詞)“啊ー”、“あー”は日本語・中国語共に使用されるが、「えー」、「えーっと」は日本語専用のフィラーであり、中国語では通常、使用されない。疑問を表示する「え？」も日本語専用の感動詞である。そのため、中国語母語話者とのやりとりにおいて、日本語専用のフィラー等を使用してCSとして機能するかについては今後、さらなる調査が必要である。
- 8) 例文中の“这个(zhège)”は“几个(jǐge)”の、“写(xiě)”は“学(xué)”の聞き間違いである。
- 9) 例文中の“学习(xuéxí)”は“学校(xuéxiào)”の聞き間違いである。
- 10) 教師自身は授業内でフィラーや感動詞を使用していることもあるが、学習者はこれまで中国語のフィラー、感動詞について取り立てて学習したことがなく、“那个”(日本語の「あの…」に相当)や“啊?”(日本語の「え?」にほぼ相当)等は使用されていなかったことから、学習者が使用したフィラー、感動詞は全て日本語を中国語に持ち込んだものと推測される。

参考文献

- 福間康子(1994)「口頭試験にみるコミュニケーション・ストラテジー:聞き返しの表現形式とその応答について」『九州大学留学生センター紀要』6:1-13。
- 福富(堀内)奈美(2012)「接触場面の日本語会話における『聞き返し』—どのような『聞き返し』が効果的なストラテジーと言えるか—」『四天王寺大学紀要』53:275-290。
- 堀内奈美(2011)「接触場面における『聞き返し』のストラテジー—日本語非母語話者の学習レベルの相違による特徴—」『四天王寺大学紀要』51:307-322。
- 猪狩美保(1998)「オーラル・テストに見られるコミュニケーション・ストラテジーに関する一考察」『横浜国立大学留学生センター紀要』5:5-14。
- 猪狩美保(1999)「初級日本語学習者の『聞き返し』のストラテジー—初級日本語教科書との関連から—」『横浜国立大学留学生センター紀要』6:5-14。
- 石田(猪狩)美保(2002)「韓国語を母国語とする日本語学習者による『聞き返し』の使用」『横浜国立大学留学

- 生センター紀要』9：79-92。
- 李明姬（2011）「中国における日本語学習者の『聞き返し』の使用について」『東アジア日本語教育・日本文化研究』14：321-333。
- 森山卓郎（2015）「感動詞と応答新情報との遭遇を中心に」『感動詞の言語学』53-81、友定賢治編、東京：ひつじ書房。
- ネウストプニー、J. V.（1981）「外国人場面の研究と日本語教育」『日本語教育』45：30-40。
- ネウストプニー、J. V.（1995）『新しい日本語教育のために』大修館書店。
- 野田尚史（2015）「日本語非母語話者の感動詞の不自然な運用」『感動詞の言語学』149-165、友定賢治編、東京：ひつじ書房。
- 椿由紀子（2010）「コミュニケーション・ストラテジーとしての『聞き返し』教育—実際場面で使用できる『聞き返し』をめざして」『日本語教育』147：97-111。
- 尾崎明人（1992）「『聞き返し』のストラテジーと日本語教育」『日本語研究と日本語教育』251-163、カッケンブッシュ寛子他編、名古屋：名古屋大学出版会。
- 尾崎明人（1993）「接触場面の訂正ストラテジー—『聞き返し』の発話交換をめぐる—」『日本語教育』81：19-30。
- 尾崎明人（2001）「接触場面における在日ブラジル人の『聞き返し』とその回避方略」『社会言語科学』41：81-90。
- 定延利之（2010）「会話においてフィラーを発するということ」『音声研究』14-3：1-13。
- トムソン木下千尋（1994）「初級日本語教科書と『聞き返し』のストラテジー」『世界の日本語教育—日本語教育論集』4：31-43。
- 横須賀柳子（2001）「情報取りにおける聞き手のストラテジー」『ICU日本語教育研究センター紀要』10：29-39。
- 高海虹（2000）〈交际策略能力与研究报告——观念与运用〉《外语教学与研究》1：53-58。
- 江晓丽（2015）〈美国大学生汉语口语交际难点与应对策略研究〉《世界汉语教学》2：250-264。
- 靳洪刚（2011）〈现代语言教学的十大原则〉《世界汉语教学》1：78-98。
- 李彦霖、王萍丽（2014）〈非母语者汉语交际策略个案研究〉《汉语国际传播研究》1：161-168。
- 刘颂浩、钱旭菁、汪燕（2002）〈交际策略与口语测试〉《世界汉语教学》2：93-102。
- 陆萍、李知沉、陶红印（2014）〈现代汉语口语中特殊话语语音成分的转写研究〉《语言科学》2：113-130。
- 罗青松（1999）〈外国人汉语学习过程中的回避策略分析〉《北京大学学报（哲学社会科学版）》6：129-133。
- 吴勇毅（2008）〈意大利学生汉语口语学习策略使用的个案研究〉《世界汉语教学》4：88-100。
- 闫丽萍、雷晔（2011）〈汉语口语交际策略使用的差异性研究——以吉尔吉斯斯坦奥什国立大学汉语学习者为例〉《新疆师范大学学报（哲学社会科学版）》4：78-85。
- 章文君、梁丽、陈新芳（2008）〈外国留学生汉语口语交际策略调查〉《金华职业技术学院学报》1：34-38。
- 钟泽洲（2009）〈谈外语教学中交际策略的教授方法〉《广州广播电视大学学报》4：34-39。

Dörnyei, Z.; & Scott, M. (1997) "Communication strategies in a second language: Definitions and taxonomies".
Language Learning, 47: 173–210.

Færch, C., & Kasper, G. (Eds.) (1983) *Strategies in Interlanguage Communication*. London: Longman.